



【聖山1】曲輪（Ⅰa郭）



【聖山1】土橋



【聖山1】眺望



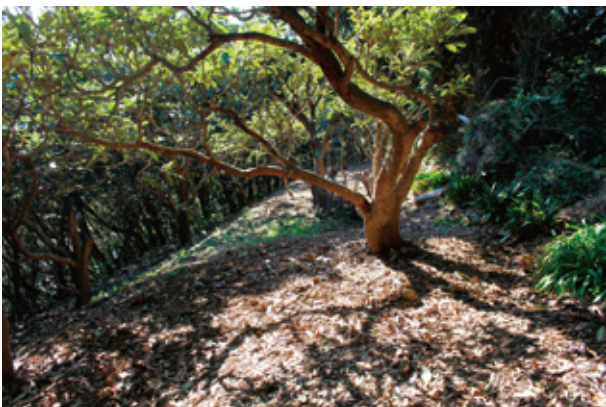
【聖山2】腰曲輪（Ⅱc郭）



【聖山2】堀切



【聖山2】石塁状遺構



【聖山3】腰曲輪（Ⅳ郭）



【聖山3】水堀（榎ヶ池）

写真9-1 城郭を構成する諸要素



【大谷】尾根上の曲輪



【仲ノ台】平場



【新宿】方形プランの平場



【木出】丘陵尾根の先端部



【用害】港部分



【宮ノ台】曲輪



【宮ノ台】通路状遺構



【一部】見学路

写真 9-2 城郭を構成する諸要素



【聖山1】里見公園



【聖山1】石造物



【聖山2】房州ビワ



【聖山2】稲荷神社



【聖山3】聖大権現碑（左）と里見公遺愛の松の碑（右）



【聖山3】農道



【聖山3】ビワ運搬用レール



【聖山3】防空壕

写真10-1 その他の諸要素



【仲ノ台】内房線



【新宿】学校寮



【木出】逢島隧道



【用害】国道 127 号

写真 10-2 その他の諸要素



【本質的】全昌寺



【本質的】里見義頼の墓



【本質的】青岳尼供養塔



【本質的】汐入川



【本質的】古道



【その他】富浦駅



【その他】市立富浦小学校



【その他】市役所

写真10-3 その他の諸要素

第4章 史跡の現状・課題

当章では、史跡の保存管理、活用、整備、運営・体制の現状と課題を上げ、整理する。

第1節 保存管理の現状・課題

現在上げられる現状と課題は、大きく10項目である。史跡指定地は、ビワを栽培している民有地が多いため、当面は土地所有者による管理が継続される。現在営まれている生活や生産と史跡保護が、どのように共存できるかが課題である。城跡が丘陵に立地しているため、樹木が繁茂している箇所がある。放置すると来訪者の通行を妨げてしまう恐れがある。また、当史跡の本質的価値の一つである眺望も妨げられてしまっており、伐採や除草といった管理が必要である。さらに、城跡の一部が土砂災害警戒区域及び急傾斜地警戒危険区域に指定されている。このため適切な手法で法面保護をし、遺構の保全を図るとともに安全対策を講じることが必要である。

現状と課題の各内容については、下記のとおりである。

○史跡管理状況【地区共通】

- ・巡回は不定期に実施しているが、史跡指定地の災害に関する情報は、土地所有者からの情報に頼っている。そのため定期的な巡回と危険箇所の把握が必要となる。
- ・史跡指定地の範囲を、現地で確認することが難しい。そのため、史跡指定地を明示する境界標の設置が必要となる。
- ・既存の説明板や案内板は、設置から年数が経過している。経年劣化した設置物は、更新または撤去する必要がある。

○現在の生活との共存【地区共通】

- ・ビワなどが栽培されている丘陵である。そのため民有地が多く、事業の推進には一定の配慮が必要である。継続的な個別協議を要する。
- ・ビワ運搬用のレールが設置されている。こうした生産に必要な設備の新設、更新または撤去する場合に対応できる現状変更取扱基準を設定し、これを周知していく必要がある。
- ・史跡の一部が、市の地域防災計画の中で一時避難場所として指定されている。災害時にも利用できるように、史跡を適切に管理していく必要がある。

○各種調査【地区共通】

- ・発掘調査や文献調査が、継続して実施できていない。各事業の実施にあたっては、新たな知見が求められるため、計画を立てて実施していく必要がある。

○景観【地区共通】

- ・樹木が伸びて眺望を妨げている。土地所有者の了承を得ながら、伐採や除草等の日常的な植生管理が必要となる。

○防災・安全対策【地区共通】

- ・見学路に草木が繁茂しており、通行が妨げられてしまう恐れがある。伐採や除草等の日常的な植生管理が必要となる。